

元気で健康なまち・ひとで あり続けるために

令和3年度まちづくり懇談会



人口減少社会において
今後も“担い手不足”が続く中、
どのように私たちの“まち”を
維持してゆくのか？

元気で健康なまち・ひとであり続けたい！

元気で健康なまちとは

- 1 **住民の生活が便利で楽しい**
- 2 **少ない人手**でまちの機能が安全に維持できる
人手をかけるべきところに適切に手がかけられる
- 3 多様な主体（人・もの・知識）の**連携・交流が**
活発になり、**新たな価値や生きがい**が生まれる

元気で健康なまちとは①

便利で楽しいまち

市民窓口



エネルギー ゼロカーボン



産業



移動・交通



観光



元気で健康なまちとは②

少ない人手でも安全に維持できるまち
人手が必要な所に温かい手が差し伸べられるまち

防災



福祉



医療



元気で健康なまちとは③

多様な交流が活発で新たな価値や生きがい生まれるまち

大学・研究部門



若者
ワークラボ



教育



茅野市が目指すまちの姿



SF映画のようなまち

住民目線で
暮らしやすいまち

“暮らしやすいまち”の実現のためにDXを推進します

「ゆい」の伝統を、先端技術を活用した「未来型ゆい」へ

「ゆい」：茅野市では、古来から血縁・地縁に基づく人々の助け合い・支え合い「ゆい」によって、大切な社会的共通資本（暮らし・文化・自然）を守ってきました。

「交流」：当市では戦後から、観光地・リゾート開発や産業立地が進み、外部から新たな市民（交流市民・別荘市民）を受け入れる中で、新しい市民協働のあり方（パートナーシップのまちづくり、公民協働による福祉づくり）を模索してきました。

「先端技術」：「AIオンデマンド乗合タクシー“のらざあ”」などの先端技術の導入試験を通して、私たちは、先端技術が通常は見えにくいニーズ（ヒトの希望や困窮）とサポート（ヒトの自発性や思いやり）を最適に、かつ合理的（省力的）に結びつける可能性を認識しました。

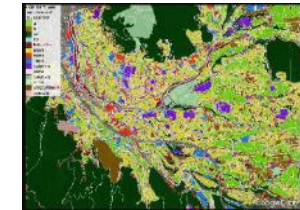
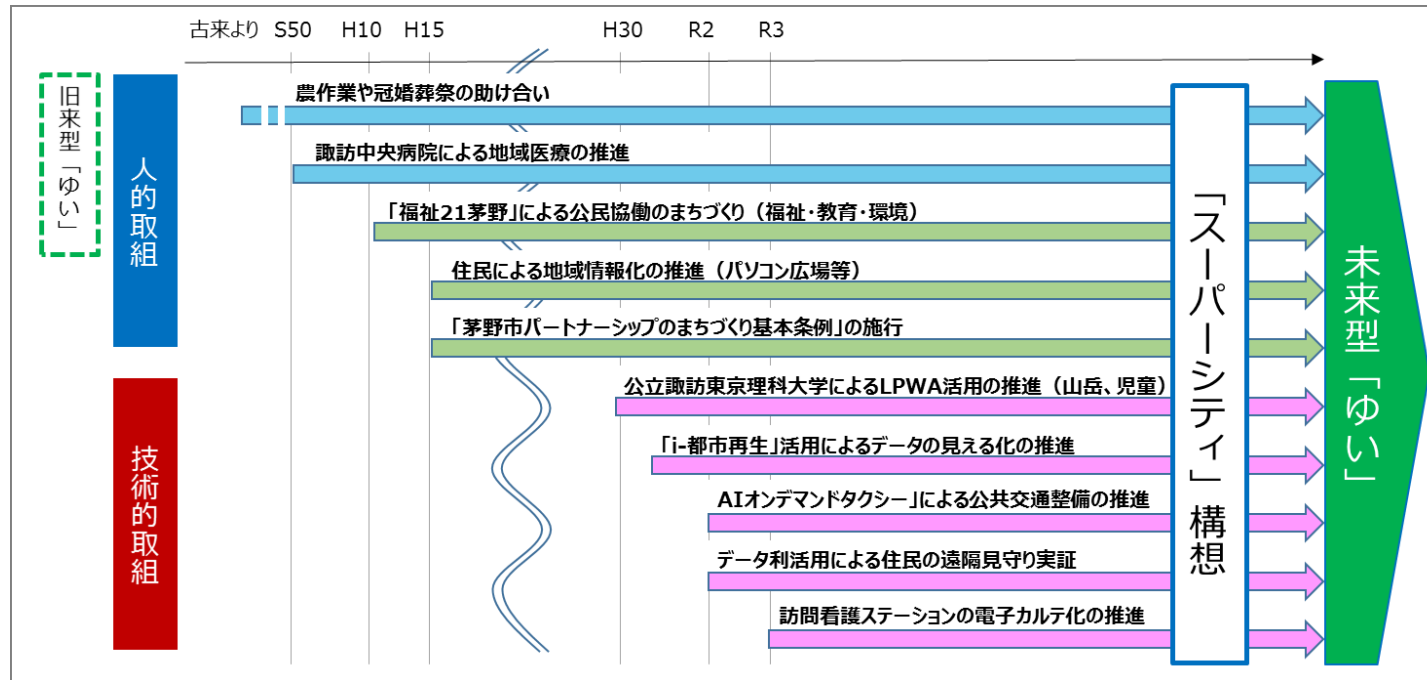
私たち茅野市は、先端技術とデータの安全な活用により、**旧来型の「ゆい」の資産**を、市外の多くの交流市民の創造力をも巻き込んだ**「未来型ゆい」へと発展**させます。



LPWA見守り



LPWA水位計



土地利用状況の可視化



「のらざあ」利用の様子

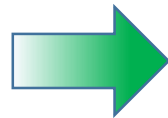
旧来型「ゆい」:

血縁や地縁を基にした、主に労働力を中心とした相互扶助

参画) 血縁的・地縁的つながり

提供) 主に労働力

効果) 社会的共通資本の維持



未来型「ゆい」:

先端技術を活用したニーズとサポートの最適マッチングによる、誰もが参加できる新たな相互扶助

参画) 誰もが参加できる（高齢者の知恵、障がいがある方の感性なども）

提供) 労働力の他、知的財産（技能）、アイデアや創造力

効果) 生産性の向上（コストダウン）、健康の増進、
交流の拡大によるシナジーの発揮

これからのまちづくりで茅野市が目指すイメージ

市民窓口



「未来型ゆい」で実現
たくましくやさしい茅野市

移動



福祉



医療



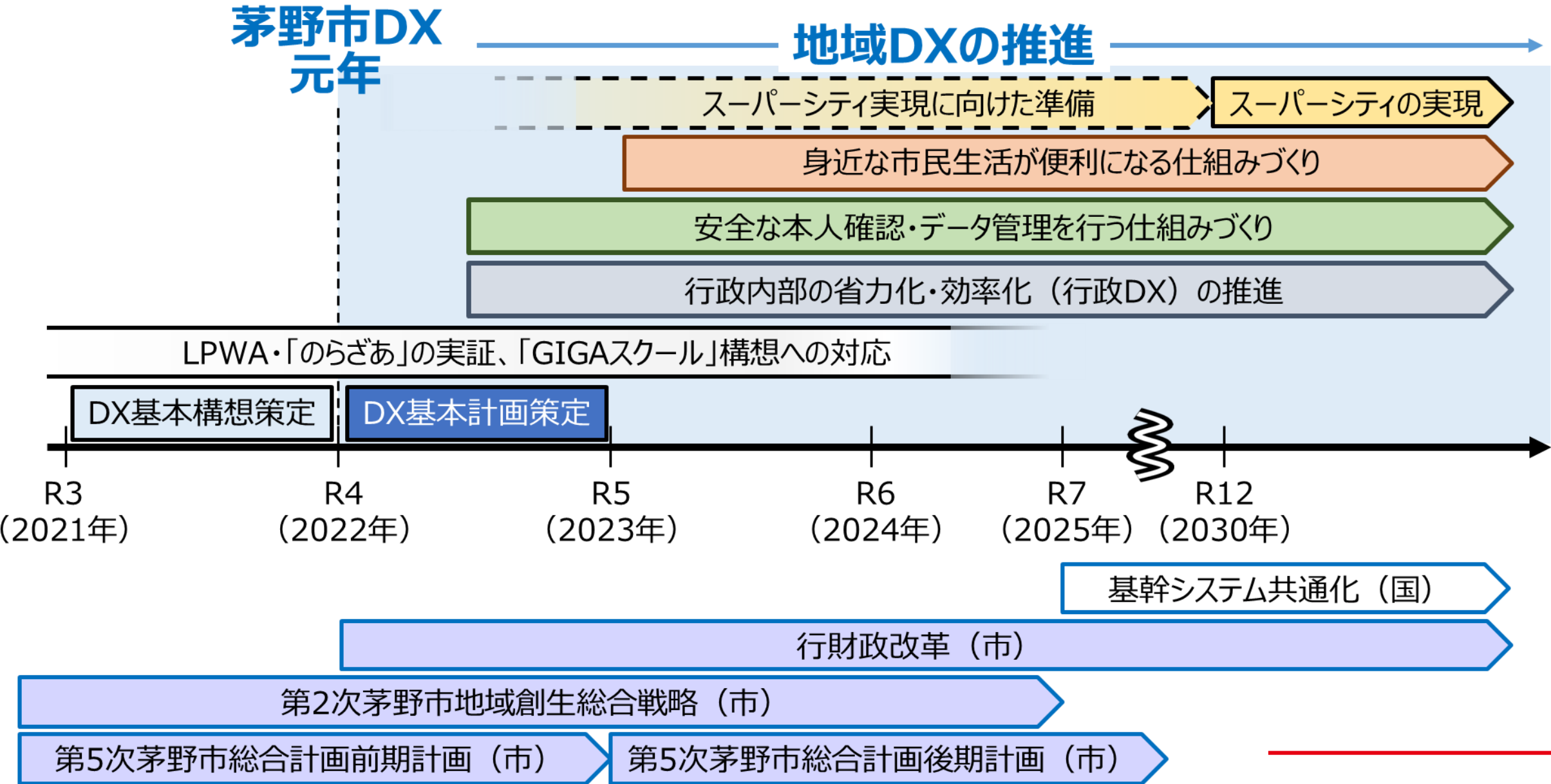
防災



教育



茅野市のDXの進め方のイメージ



ご清聴ありがとうございました

